

令和7年度  
発生予察情報

## 発生予報第9号（概要版）

令和7年9月12日発行  
宮城県病害虫防除所  
(TEL:022-275-8982)

品目	病害虫名	発生予報	病害虫名	発生予報
きゅうり	褐斑病	発生量: 平年並	べと病	発生量: 平年並
なす	うどんこ病	発生量: 平年並	アザミウマ類	発生量: 平年並
	コナジラミ類	発生量: やや多	ハダニ類	発生量: 平年並
秋冬ねぎ	黒斑病・葉枯病	発生量: 多	さび病	発生量: 少
	べと病	発生量: 少	シロイチモジヨトウ	発生量: 多
	ネギアザミウマ	発生量: 多	ネギハモグリバエ	発生量: やや多

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第10号の発行日は10月21日(火)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所 メルマガ

[トップページ](#)

[登録フォーム](#)

## ー10月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:9月4～8日

天候予報:仙台管区气象台9月11日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
褐斑病	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年並であった。( / ± )
- (2) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / + )、降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年並であった。( / ± )
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・同一薬剤を多用すると抵抗性が発達する恐れがあるので、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

#### (2) 褐斑病、べと病

- ・多発してからの防除は困難なので、予防防除に重点をおいた薬剤散布を実施する。
- ・肥料切れや着果過多、樹勢の低下は発病を助長するため、適切な栽培管理を行う。
- ・褐斑病、べと病は多湿と濡れにより発生が増加するので、整枝・摘葉で群落内部の通気性を確保するとともに適切な湿度管理を行う。

#### (3) ウリノメイガ(ワタヘリクロノメイガ)、ウリキンウワバ、オオタバコガ

- ・各施設で被害が見られるので、ほ場をよく見回り、幼虫が小さいうちに防除を実施する。
- ・多発すると株のいたるところで育成しているので、植物体全体に薬剤がかかるよう丁寧に散布する。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## —10月中旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:9月3～8日

天候予報:仙台管区气象台9月11日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	—	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年並であった。( / ± )
- (2) 気温 25～28℃、湿度 50～80%が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	—	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年より低く( / -)、寄生花率は平年より高かった。( / +)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	—	やや多

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、寄生株率は高かった。( / +)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年より低かった。( / -)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( / +)

#### ※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず  
 発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺やほ場内の雑草は害虫の発生源となるので、除草を徹底する。
- ・植物体の過繁茂は病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に整枝剪定を行う。また、病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- ・天敵製剤や訪花昆虫を使用しているほ場では、天敵や訪花昆虫への影響日数に注意して使用する薬剤を選択する。

- ・同一薬剤を多用すると抵抗性が発達する恐れがあるので、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

## (2)うどんこ病

- ・多発してからの防除は困難なので、発病前から計画的に防除を行う。発病した場合は7日おきにRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ・肥料切れや着果過多、樹勢の低下は発病を助長するため、適切な栽培管理を行う。

## (3)アザミウマ類

- ・卵から成虫までの発育期間は25℃で約14日であるので、発生が多い場合は、7日間隔で2～3回RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

## (4)コナジラミ類

- ・葉や果実に排泄物が付着するとすす病が発生し、葉は光合成が妨げられ果実は商品価値が低下するため、ほ場をよく見回り早期発見、早期防除に努める。
- ・成虫幼虫とも主に葉裏に寄生しているので、十分量の薬液で植物体全体に薬剤がかかるよう丁寧に散布する。

## (5)ハダニ類

- ・卵から成虫までの発育期間は25℃で約10日程度と短いため、ほ場をよく見回り、発生初期からの防除を徹底する。
- ・発生が多い場合は、7日間隔で2～3回RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## －10月中旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:9月3～8日

天候予報:仙台管区气象台9月11日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒斑病・葉枯病	－	多

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病度は平年より高かった。( /+)
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
さび病	－	少

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( /－)
- (2) 15～20℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /－)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	－	少

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( /－)
- (2) 15～20℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /－)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
シロイチモジヨトウ	－	多

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く、寄生頭数は平年より多かった。( /+)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( /+)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギアザミウマ	－	多

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、被害度は平年より高かった。( /+)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギハモグリバエ	－	やや多

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並で、被害度は平年より高かった。( /+)

(2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

### 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

## 2 防除のポイント

### (1) 共通事項

- ・いずれの病害虫也多発してからでは防除が困難になるため、発生初期の防除に努める。
- ・病害虫の薬剤抵抗性発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。  
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

### (2) 葉枯病

- ・黄色斑紋病斑は、平均気温が 15～20℃、曇雨天で発生しやすい。また、肥料切れにより草勢が衰えることでも発生が助長されるため、適期収穫を行う。
- ・収穫前に薬剤防除を実施する際は、収穫前日数に注意して薬剤を選定する。

### (3) シロイチモジヨトウ

- ・防除情報第8号(8月 26 日発表)を参照。  
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/bojono8negishiroichimojyoto.pdf>

### (4) ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ

- ・ほ場内及びほ場周辺の雑草は、これら害虫の発生源となるので除草に努める。
- ・ネギアザミウマはウイルス病を媒介することがあるので、ほ場を観察し適切に防除を行う。
- ・近年、従来のネギハモグリバエと異なり、著しい食害痕を呈するバイオタイプBの発生が広域で確認されているため、防除を徹底する。

#### 《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: [byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム